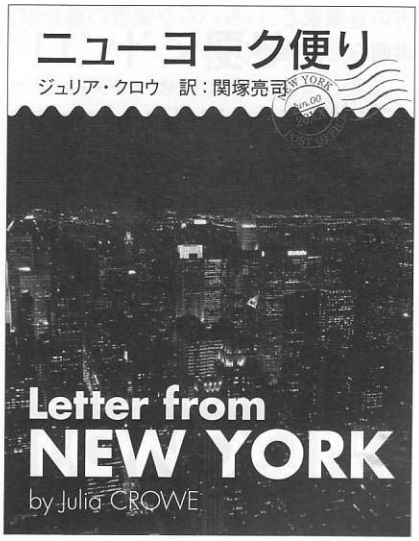

●ジュリアード音楽院の３人の学生がラジオ番組に出演

ジュリアード音楽院でシャロン・イスビンに師事している学生たちが、今年6月、『マックグロウ・ヒル・フィナンシャル・ヤング・アーティスト・ショウケース』に出演した。これはロバート・シャーマンがホストを務めるラジオ番組で、ニューヨークのクラシック音楽放送局 WQXR-FM で放送されている。すでに32シーズン目に入っているこのラジオ番組は、才能豊かな若い人材を特集することで知られている。

これまで取り上げられた演奏家は、ヴァイオリニストのナージャ・サレルノ＝ソネンバーグ、ジョシュア・ベルとチェロ奏者のマット・ハイモヴィッツだが、今回出演したのは、ジュリアード音楽院ギター科の学生、ピョン・ボギョン（Bokyung Byun）、タンユエ・ヂャン（Tengyue Zhang）、ピエーレ・フェレイラ＝マンシーリャ（Pierre Ferreyra-Mansilla）である。

放送されたのは、今年4月30日にジュリアード音楽院のポールホールで行なわれた彼らの演奏をライブ録音したもので、タンユエ・ヂャンは、セルジオ・アサドの〈プレリュードとトッカータ〉を演奏した。ピョン・ボギョンは、バリオス〈最後のトレモロ〉とポンセ《ソナタ・クラシカ》から第1楽章を演奏、ピエーレ・フェレイラ＝マンシーリャは、カルロス・グアスタビーノの《ギターソナタ》第1楽章を演奏した。また、ピョンとマンシーリャのデュオで、ピアソラのタンゴを演奏、ピョン、ヂャン、マンシーリャがトリオを組んで、ボッケリーニの《ギター五重奏曲第4番》から〈序奏とファンダンゴ〉およびファリアの《三角帽子》から〈粉屋の踊り〉を演奏した。

●韓国のピョン・ボギョン

ピョン・ボギョンは、韓国ソウル出身で、6歳からギターを始めた。現在ジュリアード音楽院の3年生で、シャロン・イスビンの指導のもと音楽学学士課程を履修している。彼女は、これまで韓国のキム・テソ、中国の陳志、ロサンゼルスのウィリアム・カネンガイザーに師事した。

彼女は、2007年にGFAヤング・コンサート・アーティスト・コンクールのジュニア部門、2012年にはニューヨーク市で開かれたGFAニューヨーク地区ギター・シンポジウムで優勝と、すでにコンクールでの優勝経験がある。

最近の演奏活動としては、アスペン音楽祭スポットライト・リサイタルでの演奏と、NPRラジオ番組『フロム・ザ・トップ』に出演し演奏を行なった。

彼女は、ジュリアード音楽院を通じて、音楽推進プログラム、楽器演奏プログラム、グルック地域奉仕フェローシップ、マッケイブ・ギター・フェローシップの特別研究員として、ニューヨーク大都市圏での出張演奏と教育活動を数多く行なっている。昨年、リンカーン・センターで行なわれたヤング・ピープル・コンサートでは、監督を務め、演奏もした。今年の夏は、ロスチャイルド夏期音楽推進プログラムのフェローとして、2013年フレンチ・ウッズ・パフォーミング・アーツ・フェスティバルのクラシック部門をリードした。

「私は、母と一緒にクラシックギターのレッスン・プログラムを特集したテレビ番組を観ていて、すぐにギターに夢中になってしまいました」

「母に頼んでギター・アカデミーに連れて行ってもらい、そこでクラシックギターの弾き方を学びました。一番好きな曲は何かと聞かれたら、タレガの〈アランブラの想い出〉を選ぶでしょう。私はこの曲を『フロム・ザ・トップ』で演奏しました。トレモロで奏でるメロディーラインは、スペインのアランブラ宮殿の泉と滝から流れ出る水の音のように響くと思います。この作品は、単に美しいだけではなく、聴く人を感動させる充分な力を持っています。私の演奏を聴いて楽しんでくれる人々を見ると、私はいつも幸せを感じます。」

「私は、ジュリアード音楽院でギターを勉強出来ることに、とても感謝しています。全部屋が練習室になっている4階だけではなく、あちらこちらから聴こえてくる学友たちの演奏から感じるエネルギーと情熱が、私を触発します。学校に行かず自宅で練習することが多かった私には、このような情熱的な音楽家に出会う機会がありませんでした」

「私たちは、年に一度スタジオリサイタルを開きます。ラジオのヤング・アーティスト・ショウケースで放送されたのは、前の学期に行なわれたリサイタルを録音したものです。このリサイタルでは、ボッケリーニの《序奏とファンダンゴ》を、私たち自身の編曲で演奏しました。実は、既存の編曲を使って練習を始めたところ、修正したい箇所が幾つか出てきましたので、シャロン・イスビンに相談したところ、自らの編曲を作るように言われたのです。彼女は、私たちの編曲について、アイディアを与え、間違いを指摘し、いろいろ助言をしてくれました。完成するまでに時間はかかりましたが、最後には、自らの編曲譜を、全員が誇りを持って演奏しました」

彼女の使用楽器は、1994年製トーマス・ハンフリーである。

●中国のタンユエ・ヂャン

タンユエ・ヂャンは、現在ジュリアード音楽院2年生だが、彼がシャロン・イスビンに入学を勧められたのは、2年前に彼女のマスタークラスを受講したのがきっかけだった。北京中央音楽院で13年間陳志教授の指導を受けてきた彼は、2010年のGFAユースコンクールで第1位になった。2012年には、セルビアのベオグラードで開かれたギター・アート・フェスティバルの開会式で演奏した。

タンユエ・ヂャンは、左・右の手の訓練と、フレージングのための耳の開発に関する、陳志教授の指導法を高く評価している。

「陳志教授とイスビン教授の違いは、

陳志教授が我々の演奏曲目を具体的にアドバイスすることが多いのに対して、イスビン教授は自由な選曲を認めてくれることです。時には彼女にアドバイスを求めることがありますが、イスビン教授は、作品の細かいところに焦点をあてた話をしてくれます」

「私が音楽的な基礎訓練を受けていた時期に、陳志とシャロン・イスビンという2人の教授が、相次いで指導してくれたことは、私にとって最高の環境でした」

「もし、私がギターを始めて間もない頃に、陳教授のような偉大な指導者がいなかったなら、現在のような技術的な能力を身に付けることは出来なかったと思います。また、シャロン・イスビンに師事するためアメリカに留学することもなかったと思います。これは夢が実現したのです。2人の指導者に対して、心から感謝の気持ちを表したいと思います」

シャロン・イスビンのレッスン風景

●ペルーのピエーレ・フェレイラ=マンシーリャ

ピエーレ・フェレイラ=マンシーリャは、ペルーの首都リマの出身で、ジュリアード音楽院でシャロン・イスビンに師事し、現在、音楽学修士課程を履修中である。彼は、2011年フィラデルフィア・クラシック・ギター・ソサイエティー・コンクールで最優秀賞に輝き、ピーター・グロス・パフォーマンス奨学金を得た。彼がリマでギターの勉強を始めたのは、9歳のときだった。

「私は、2004年まで、リマでギターを勉強しましたが、その後家族と共にニュージャージー州に移住しました」

「ここで、高校の後半の2年間を終えてから、実は暫くギターを弾くのを止めてしまったんです。それから2年の間いろいろな仕事をした後に、再びギターを弾くことになり、マンネス音楽学校に入学し、マイケル・ニューマンに指導を受けました。そして、2012年には学士号を取得しました」

1997年製ウィリアム・クレーマー・ハリソンのギターを使用しているマンシーリャは、さらに語った。

「私は、マイケル・ニューマンと一緒にテクニックを完成させ、現在演奏しているレパートリーのほとんどを習得しました。私のレパートリーは幅広いですが、特に南米の作曲家と19世紀後半の作曲家の作品に傾倒しています」

「シャロン・イスビンの指導を受けるために、マンネス音楽学校の3年生だった2010年に、初めてアスペン音楽フェスティバルに参加しましたが、その後も毎年継続して参加しています。こうしてシャロンを知ることになり、ジュリアード音楽院で修士号を取得するために入学したわけです。現在は、その2年目が始まろうとしているところです」

●ジュリアード音楽院ギター科主任教授シャロン・イスビン

シャロン・イスビンは、自らが指導する音楽院について以下のように述べた。

「私が1989年に始めたジュリアード音楽院のギター科は、来年2014年に創設25周年を迎えますが、主任教授として、そのお祝いをすることが出来ることにわくわくしています。現在のギター科は、音楽学の学士号と修士号を提供していますが、学部と大学院のディプロマ・プログラムも提供しています。学生は、リンカーン・センターでソロやアンサンブルを演奏すると同時に、数多くの教育的な地域奉仕活動にも参加しています」

「私が指導してきた学生の出身国は、世界20カ国以上になりますが、その内の多くは演奏家やレコーディング・アーティストとして歓迎され、大学教授や音楽学校の指導者としてグローバルに活躍しています。音楽院からは、GFA国際コンクールの優勝者2人の他、各種コンクールでの入賞者を輩出しています」

「私は、プロフェショナルなキャリアに相応しい傑出した才能と想像力を持った学生を選抜しています。こうした学生を、私のツアー中に発見することもあります。例えば、2011年に中国の北京中央音楽院で開かれた私のマスタークラスで、タンユエ・ヂァンが演奏するのを、私は初めて聴きました。また、毎年夏に行なっているアスペン音楽祭で初めて会ったという例もあります。ここ数年アスペン音楽祭で私の助手を務めているのは、すべてジュリアード音楽院の卒業生で、一番最近の卒業生は、2012年に修士号を取得したコリン・デヴィンです。彼がアスペンで私の指導を受け始めたのは15歳のときです」

最後に、シャロン・イスビンより動画チャネルの紹介。

①我々が最近製作したチャネルです。
http://www.youtube.com/JuilliardGuitar

②タンユエ・ヂァンが2013年学生ギターリサイタルで演奏した時の録音です。
http://www.youtube.com/watch?v=nwsk25qPVmw

③ジュリアード音楽院のギタープログラムについての詳細は下記を参照下さい。
http://www.juilliard.edu/degrees-programs/music/guitar.php
http://www.wqxr.org/#!/programs/youngartists/2013/jun/05/
http://www.fromthetop.org/content/show-270-athens-georgia